

有限会社 アラヤ

新家毅さん

あったら便利！を形にする
「町のエジソン」



数々のアイデア商品を生み出す有限会社アラヤ。

昭和34年設立。父からこの会社を引き継いだ新家 毅さんは、建設機材、塗装用具の製造販売を行う中で、板金、溶接などの技術を活かし「請けおったものだけではなく、自ら考え、作ったものを」と、アイデア商品を手がけるようになった。

最大のヒットとなる「安定缶」は、傾斜のある屋根にペンキ缶などを安定して置けるように、足の長さを工夫した金属の固定器具。ずれない、倒れないと職人さんに喜ばれている。



屋根の上でも
ペンキなどの缶を
水平に保つことが
できる脚つき台

安全ゴマの 軸がゴマの
中に引っかきくみ
誤って踏んでも痛くない



はけ
刷毛が沈んで
しまわないように、
缶のふちに留めて
おける器具。

数え切れないアイデアの中から、30種類ほどを商品化。使う人の目線で、“あったらいいな”を考える。80歳を迎えた今も、「まだまだ世間を驚かすアイデア商品を作るつもり」と笑顔を見せてくれた。

中島保美 鑄金工芸美術研究所

中島 順次さん

伝統工法を受け継ぐ鑄金作家、
今のテーマは「対峙」

立ち上る炎から、時折火の粉が舞い上がる。溶解炉で溶かされ1000度以上になった金属をいよいよ鑄型に流し込む時、工房には緊張が走る。

奈良の大仏や、梵鐘、身近な物ではマンホールなど、鑄物の歴史は古い。祖父の代に始めた鑄金。三代目の順次さんは、企業からの受注品を手掛けながら、作品作りも続け、美術展で数多くの受賞を重ねてきた。約12年ほど大学で鑄金を教えたのち、現在は作家活動に専念。ブロンズ、真鍮、錫、亜鉛などの金属を使った作品は伸びやかで力強い。

日々の生活からアイデアが浮かんでくるという順次さん。最近の作品のテーマは「対峙」。人と向き合い、立ち直りを支える保護司としての思いが作品の中に込められている。

うちの家の周辺は、
ちゅうぞう
鑄造の街やったんです。



▲ 左:工房で生み出された順次さんの作品。金属でありながら、「やわらかさを感じる形」を心がけているのだそう。

右:自宅に併設された工房。同じく鑄金作家である息子の健太郎さんと二人三脚で作品作りに挑む。(写真は健太郎さん)

荒木産業株式会社

荒木健治さん



ガスセンサで人の命を守る！
安心・安全を形にする想いと技術“

昭和23年に縫製雑貨の製造販売を行う商店として創業。昭和59年からは、ガス漏れを感知する半導体ガスセンサの製造に携わり、現在の主力事業になっている。センサは、ガス警報器だけではなく、空気清浄機、エアコン、アルコールチェッカーなど様々な製品に応用されている。

30年以上ガスセンサを製造してきた技術を活かし、新しい商品の開発にも取り組んでいる。その中のひとつ、「AutoRefresh」は、“空気の汚れ”と“室内温度”を2つのセンサでそれぞれ感知して、換気扇を自動運転させるもの。「ガスセンサは人の命を預かるもの。生半かな気持ちで作ったらあかん。」そう話す社長の荒木健治さん。一つひとつに愛情を注ぎ、製品を作り続けている。



▲ Auto Refresh(オートリフレッシュ)



▲ 毎年、自社工場で、地元の学校の生徒さんやプロの音楽家による無料コンサートを開催。地域の方々の喜んでいただける姿が原動力になっているそう。

松田食品工業株式会社

社長 松田浅三さん

自称「日本一おいなりさんを
食べている男」です！出かけたなら
必ずおいなりさんを食べて、
いつも味の研究をしています！

関西シェアNo.1！
進化し続ける“おあげさん”

フレーバー
揚げも人気



商品のほとんどが企業向け
デパートや、スーパー、うどん
屋さんなどに出まわっているの
意外と身近な存在かも？

現社長の父親の代に“町のお豆腐屋さん”として昭和21年創業。現在は、味付け油揚げを中心に大豆加工食品などの製造・販売を行っている。



▲ 海外輸出用のカラフルなおあげさん！

いなり寿司やうどんに欠かせない“おあげさん”（味付け油揚げ）。各地域で好まれる味やお店のニーズを開拓し、おいしいと思ってもらえるものを作り続けてきた結果、なんと約300種のおあげさんを取り扱うまでになり、関西ではトップシェアなのだとか。大豆由来のおあげさんは、ヘルシー志向の若者からも人気が高まっており、日本食ブームにより外国企業からの注文も増えているという。最近では、チョコやフルーツの味付けをしたカラフルな商品など、常識にとられない新商品の開発にも意欲的だ。いつの時代も社会の変化を捉え、“攻め”を貫く姿勢が、会社の発展を支えている。